

令和3年度 日高川町文化表彰

令和3年11月26日(金)に、農村環境改善センターにおいて、令和3年度日高川町文化表彰式が行われ、2名の方が受賞されました。



日高川町文化賞
つむら かずひろ
津村 和宏(号龍堂) 様 (小熊)

書道の研鑽を重ねられ、日本書芸展大賞、特別賞、日展入選など多数受賞されています。現在では、書団神融会副会長、石門会会長、などの書道団体の役職を務められ、後継者の育成に尽力されています。さらに、30年以上の永きにわたり、文化協会書道部の指導者として、地域の書道文化の発展に寄与されるなど、文化の向上発展や文化活動の推進に貢献されています。

日高川町文化賞
ささき たけひこ
佐々木 健彦 様 (上初湯川)

美山村文化協会の発足当時から文化協会活動に携わり、平成10年からは、美山村文化協会会長、町村合併後は、日高川町文化協会副会長および美山分会会長として、令和3年5月までの33年間という永きにわたり、文化協会のリーダーとして地域の文化活動を牽引してこられました。また、以前には、美山村村史編纂委員や美山村および日高川町において文化財保護審議委員として、文化財の保護、伝承に尽力され、文化活動の推進や文化の向上発展に貢献されています。

令和3年度「和歌山県農林水産業賞」を受賞されました

令和3年12月2日(木)に、和歌山県庁において、令和3年度「和歌山県農林水産業賞」の表彰式が行われ、足川修氏(山野)が受賞されました。

足川氏は、日高川町紀州備長炭保存会会長として、「備長炭生産量日本一の町」のPR活動に尽力されるとともに、紀州備長炭指導製炭士として、県内の製炭者の技術指導にあたり、Iターン者を含めた多くの後継者を育成されました。さらに、県木炭協同組合副理事長として、組合運営を通じ紀州備長炭の振興にも大いに貢献されました。

また、足川修氏の父 足川幸太郎氏も、平成8年度に前身の「農民賞」を受賞されており、親子2代にわたる受賞となりました。



日高川町「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました

日高川町は、令和3年11月29日(月)に、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを実現できるよう取り組むことを決意し、「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。



ゼロカーボンシティ宣言内容

水と緑の豊かな自然が息づく日高川町は、地域特性を生かしながら、農林業の振興や観光・交流、移住・定住を推進しています。この地域が有する貴重な歴史的・文化的な資源やきれいな水、空気、満天の星が輝く夜空、のどかな農村風景など、自然そのものが貴重な財産・資源であり、未来を生きる世代に、かけがえのない豊かな自然環境を確実に引き継がなければなりません。しかし、近年は全国的に巨大台風や集中豪雨による自然災害が激甚化するなど地球温暖化の影響は深刻さを増しています。私たちの日高川町は、昭和28年の紀州大水害や平成23年の紀伊半島大水害では多くの家屋が流失し、人命が奪われるなど甚大な被害を受けました。こうした自然の猛威は私たちの生命や暮らしを危機にさらす「気候危機」と言うべき極めて深刻な問題となっています。

これらの課題を解決するため、2015年に合意されたパリ協定では「産業革命前からの平均気温上昇を2度未満とし、1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。また、2018年に公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では、この目標を達成するために、「2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにする必要がある」と示されています。

この目標達成に向けて、平成23年紀伊半島大水害から10年目となることを踏まえ、今後も住民の生命と財産を守り、この豊かな自然環境を次の世代につないでいくため、災害に強いまちづくりを目指し、町民や事業者の皆様と一体となって「2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを実現できるよう取り組むこと」を決意し、ゼロカーボンシティへの挑戦を宣言します。

今後、この目標が実現できるよう取り組んでまいります。

- 1 災害に強いまちづくりを目指し、防災・減災に取り組みます。
- 2 森林・農地の保全と水資源の保全に取り組みます。
- 3 ゴミの減量化、分別化、海洋プラスチックゴミ防止に取り組みます。
- 4 地球温暖化防止や気候変動問題の環境教育・啓発活動に取り組みます。
- 5 蓄電池システムなど新しいエネルギー技術の普及促進に取り組みます。

ゼロカーボンシティ宣言とは

国が表明した「2050年にCO₂排出、実質ゼロにすることを旨とする」という旨を「地方自治体の首長が表明(公表)すること」をゼロカーボンシティ宣言といいます。

※詳しくは、日高川町HPをご覧ください。

■お問合せ 企画政策課 ☎22-2041